

乳生産に及ぼす“繁殖”のインパクト

繁殖管理は農場内のマネージメントの中でも非常に重要なマネージメントの1つだということは多くの方が認識していると思います。しかし繁殖成績がどれほど農場の乳生産にインパクトを及ぼしているか、あるいは、繁殖成績が農場の乳生産をどれだけ抑え込んでしまっているのかはなかなか比較対象がないだけに実感することはないのではないのでしょうか？

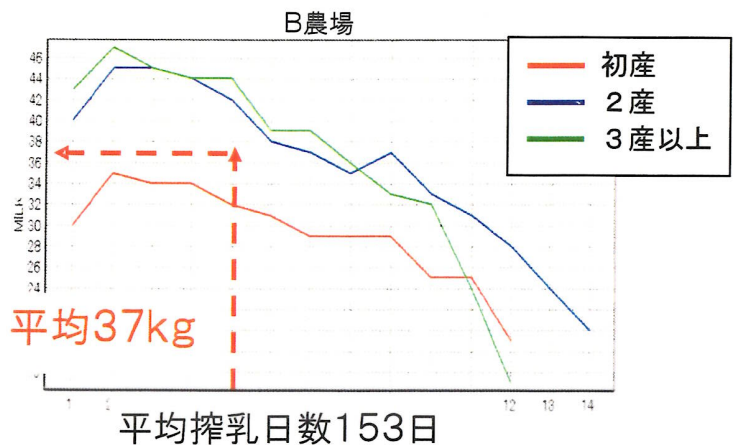
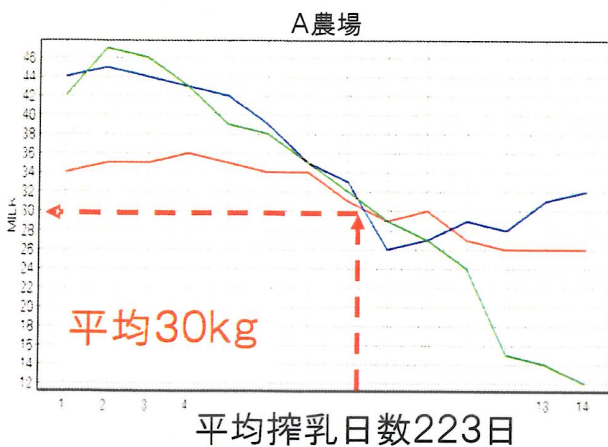
今回は、TMRセンターの構成員で、ほぼ同じTMRを給与されているにもかかわらず、個体乳量に大きな差のある2つの農場の事例を報告します。

★A農場

妊娠率16% 平均空胎日数152日
平均搾乳日数223日 個体乳量30kg

★B農場

妊娠率23% 平均空胎日数129日
平均搾乳日数153日 個体乳量37kg



また、以下の点から2つの農場の泌乳曲線はほぼ似たような泌乳曲線であると言えます。

- ・初産のピーク乳量はおおよそ34kgで横這い
- ・経産牛の飛び出し乳量はおおよそ40～44kg
- ・経産牛のピーク乳量はおおよそ46kg
- ・ピークの後と同程度の乳量下降

つまりこの2つの農場は「ほぼおなじTMR給与」「ほぼ同じ泌乳曲線の牛群」という点から産乳ポテンシャルにはほぼ差がないわけで、この2つの牛群の個体乳量の差こそが“繁殖のもと乳生産へのインパクト”なのです。

平均搾乳日数が200日を切ってくると、その後は10日短くなる毎に個体乳量は1kg増えると言われてています。

このように今現在一体どれくらいの平均搾乳日数で搾乳しているのかによって、個体平均乳量はずいぶん差が出るのが分かります。さてあなたの農場の今現在の平均搾乳日数は？